

# 埼玉地区壮年部 秋の研修会 報告

地区壮年部委員会委員長 市川 浩（飯能教会）

開催日：2018年11月17日（土）9：30～15：40

会 場：大宮教会小礼拝堂

テーマ：聖書に学ぶイエス・キリストの教え

参加者数：19人（9教会）

内 容：

第1部 開会礼拝 9：30～10：15

説教者：原田彰久牧師（東京聖書学校吉川教会）

聖書箇所：ヘブライ人への手紙6章1～2節

説教題：教えの初歩

讃美歌：57番、390番、29番（共に讃美歌21）

- ・説教では、聖書の語る教えの初歩を忠実に学び、身に着け、その堅固な土台の上でしっかりと信仰生活を築いてゆこう、と励まされた。

第2部 映画『THE PASSION OF THE CHRIST』を観る。 10：25～12：30

- ・ホラー映画より怖かったです。

第3部 講演 原田彰久先生 13：00～14：15

講演題 「聖書に学ぶイエス・キリストの教え」

「十字架にかかりたる救い主を見よや・・・、ただ、信ぜよ」（聖歌総合版426番）の賛美に始まり、私たちの集りである日本基督教団が、実に多様性のある豊かな、合同教会であることが示された。

「合同」の根拠は日本基督教団信仰告白であり、それは、聖書のエッセンスである。なぜなら、「本教団の信仰告白は、旧新約聖書に基づき」（教憲第2条）と信仰告白を規定しているからだ。

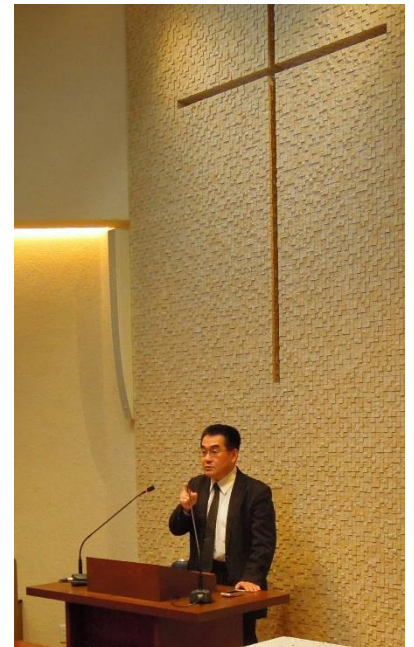
信仰告白には、イエスの生涯が語られていないなどの批判もあるが、エッセンスに全てを盛り込むことは不可能。

イエスの生涯は十字架に集約されている。

イエスとその生涯で示された愛も、慈しみも、十字架の出来事が示している。まず、その十字架につけられた救い主を見よ。

その救い主を、日本基督教団を形成している教会、信徒、教師はみな同じキリスト、イエスとして告白している。このように多様な集まりである合同教会が、その豊かさの中にいきることが出来るのは、信仰告白を共にしているからである。

聖書と信仰告白が対立しているようにとらえるのではなく、聖書を、そしてイエス・キリスト御自身を深くしるための導き手として信仰告白を深く学ぼう、そして、賛美・礼拝する生活、喜びをもって福音を語り、伝道する生活を送ろう、と熱く語られた。



原田先生と十字架



講演での会衆

#### 第4部 残ったメンバーで原田先生を囲み懇談会 14:20~15:30

まず、映画の感想を分かち合い、その後原田先生の講演をめぐっての質疑応答となった。その中で、賛美礼拝が若い求道者や信徒を集めているということが注目された。大宮教会でのワークショップ礼拝の取り組みについて、大宮教会員の本田彰さんから報告があり、懇談が盛り上がった。

例によって、埼玉地区壮年部の集りは少人数となったが、教団信仰告白の意味を見直す良い学びのときを持って、恵まれた時間をいただいた。感謝であった。

以上